



## 福井県の鉄製品の様相 - 北陸地域の墳墓資料を中心として -

佐々木 勝（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター）

北陸地域は旧国単位で若狭から越後までと広域である。この中において広域流通と地域圏の形成を墳墓における鉄製品の副葬からせまってみる。

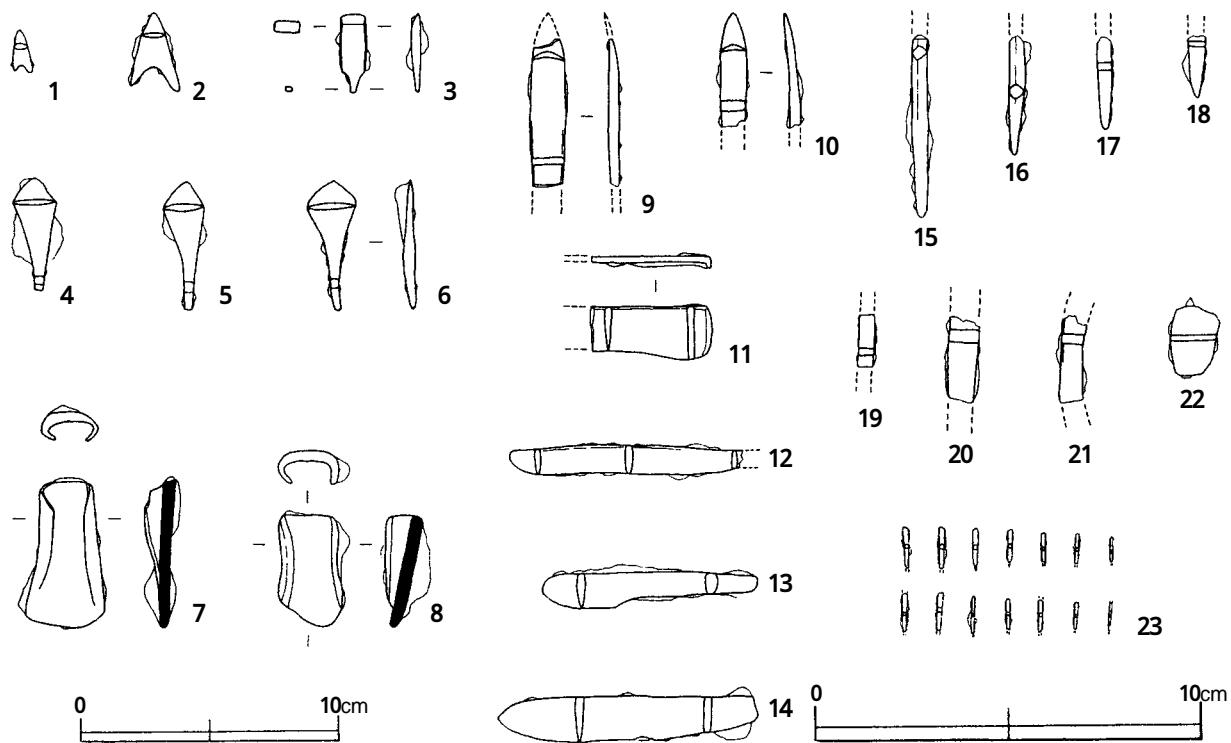
弥生時代中期末には拠点集落が解体していく。この時期に北陸地域に鉄製品がもたらされており、凹線文系土器の波及の影には、物資や情報の広域伝達ネットワークの形成があり、弥生時代後期から古墳時代前期に向けて集落の機能や階層分化が進行していくと考えられる。

集落で多量に鉄製品の出土がみられる弥生時代後期後半以降、丘陵上に大型の墳丘墓の造営が開始される。これは拠点集落解体後、階層分化が進行したため、首長墓が出現し、広域な流通ネットワークを通してたらされた大型武器類の副葬が開始される。時期的な変遷として弥生時代後期後半は鉄剣の副葬が顕著であり、弥生時代終末期になると主に鉄刀・素環頭鉄刀・刀子に転換する。このことは三韓地域における墳墓副葬品が、2世紀中頃に鉄矛・短剣から長剣・素環頭鉄刀に転換し、埋葬施設が木棺から木槨に変化することから、三韓諸国の影響を受けていると考えられる。また、乃木山古墳（弥生時代終末～古墳時代前期）は第1埋葬施設が木槨墓である。越前では素環頭裁断太刀の副葬がみられ、素環頭太刀は漢代において実用戦闘武器でありなおかつ身分表象の道具であり、その環頭を切断することは漢の風習にはない行為である。その説明は、乃木山古墳にみられるような木製の柄を付けることによって、倭的な使用・副葬方法にかえ、のちの前期古墳につながる流れとなる。またの着柄された鉄刀の柄の1つは剣でもう1つは刀の柄をつけている。このような現象があるものの、素環頭部を裁断していない鉄刀・鉄剣も同時に副葬されていることも興味深いことである。この素環頭裁断太刀は山陰から但馬にかけてみられ、日本海沿岸域の交流を考えるうえで重要である。また、弥生時代終末期の鉄刀・素環頭鉄刀の副葬は福井県嶺北・加賀・富山県西部にかけて顕著に見られ本地域より東の地域（越後・信濃・北関東・南関東）は鉄剣が副葬され鉄刀・素環頭鉄刀はみられない。このことから鉄製品の副葬風習や流通に関し志向性や選択性がうかがえる。

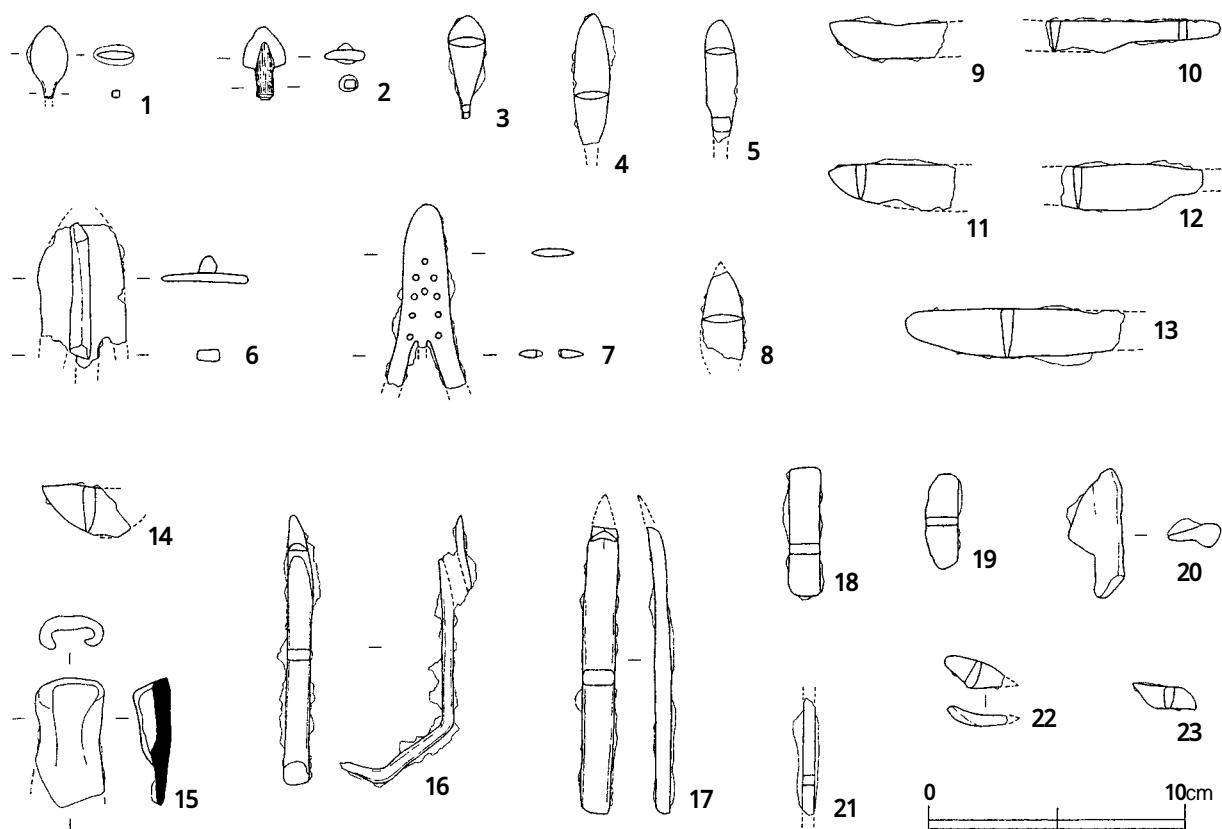
素材については吉原七ツ塚墳墓群・杉谷墳墓群から用途不明の鉄片が出土しており他に器種を確定することができないことから、素材と考えることが妥当であり、その流通に関しての好例である。また、この素材は非常に薄く小型であることからここから造り出される製品はおのずと制約を受け、集落出土鉄製品や鉄製品製作技術を考える上で重要な視点となると考えられる。

このように、墳墓出土鉄製品から大型武器類のほとんどが舶載品と考えられ、集落出土鉄製品は素材からも小型で薄造りであるといえ、副葬用の大型武器類と集落での実用品との格差があるといえる。

鉄素材や大型武器類は、北陸という地域で産出及び生産することはできない。その結果鉄製品が普及はじめめる弥生時代中期末以降、社会的生産 消費体系から越地域的生産 消費体系へと変化して、広域な物資や情報の流通・伝達ネットワークが形成されるものと考えられる。この中で弥生時代終末期には、福井県嶺北・加賀・富山県西部域で、土器文化圏においては月影式、手工業生産では緑色凝灰岩を用いた玉作り、墳墓形態は方形周溝墓・台状墓また墓制の主流にはなりえなかつたが北陸型四隅突出型墳丘墓、鉄製品副葬風習では鉄刀・素環頭鉄刀・刀子がほぼ同一の分布圏を持ちさまざま様相から地域圏の形成がみてとれる。



1 ~ 6 鉄鎌 7・8 袋状鉄斧 9・10 ヤリガンナ 11 鉄鎌 12~14 刀子 15~18 調整工具 19~22 不明鉄製品（素材？）23 鉄針  
林・藤島（泉田）遺跡出土鉄製品〔弥生時代後期後半〕(S=1/3 23のみ S=1/2)



1 ~ 8 鉄鎌 9 ~ 14 刀子 15 袋状鉄斧 16・17 ヤリガンナ 18~21 不明鉄製品（素材？）22・23 切片？

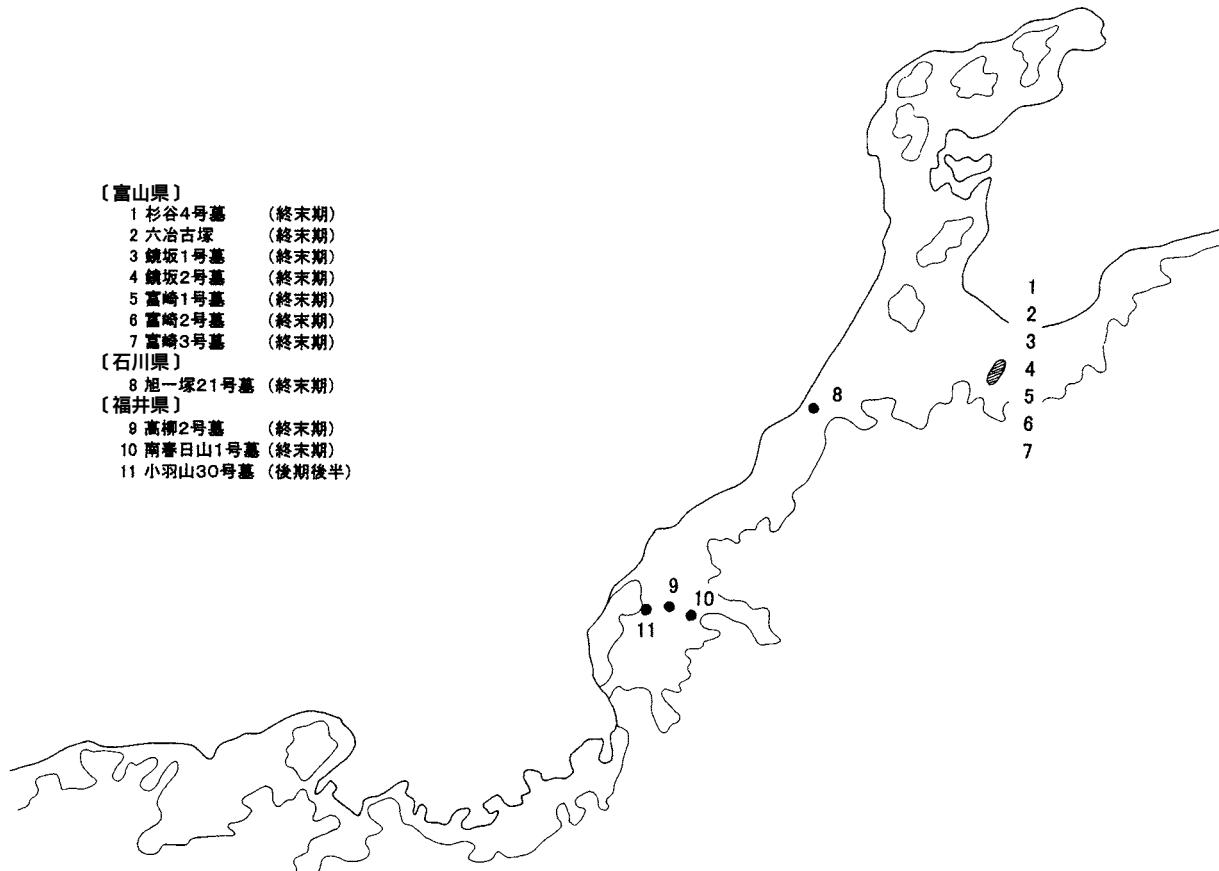
茱崎遺跡出土鉄製品〔弥生時代終末期〕(S=1/3)

- [富山県]  
 1 杉谷A遺跡 (終末期)
- [石川県]  
 2 東荒屋力カサイ遺跡 (終末期)  
 3 七野墳墓群 (終末期)  
 4 吉原七ツ塚墳墓群B20号土壙 (後期後半)  
 吉原七ツ塚墳墓群方形台状墓C1号土壙 (後期後半)  
 吉原七ツ塚墳墓群1号墓 (終末期)  
 5 寺井山6号墓 (後期後半)  
 6 和田山9号墓 (終末期)
- [福井県]  
 7 小羽山30号墓 (後期後半)  
 8 袖高林1号墓 (終末期)  
 9 乃木山古墳 (終末期)  
 10 原目山墳墓群 (終末期)  
 11 西山4号墓 (後期後半)  
 12 王山5号墓 (終末期)  
 13 向山B遺跡 (後期後半)

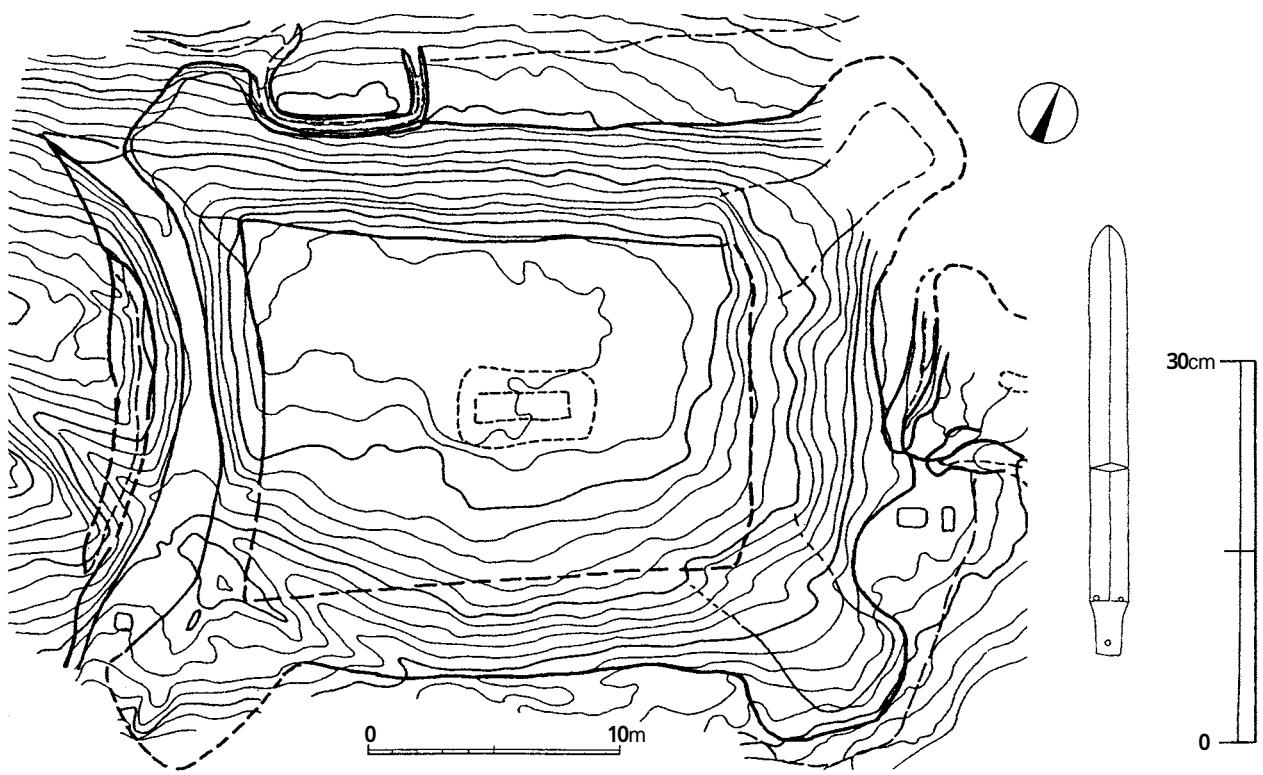


北陸地域における弥生時代鉄製品出土墳墓の分布図

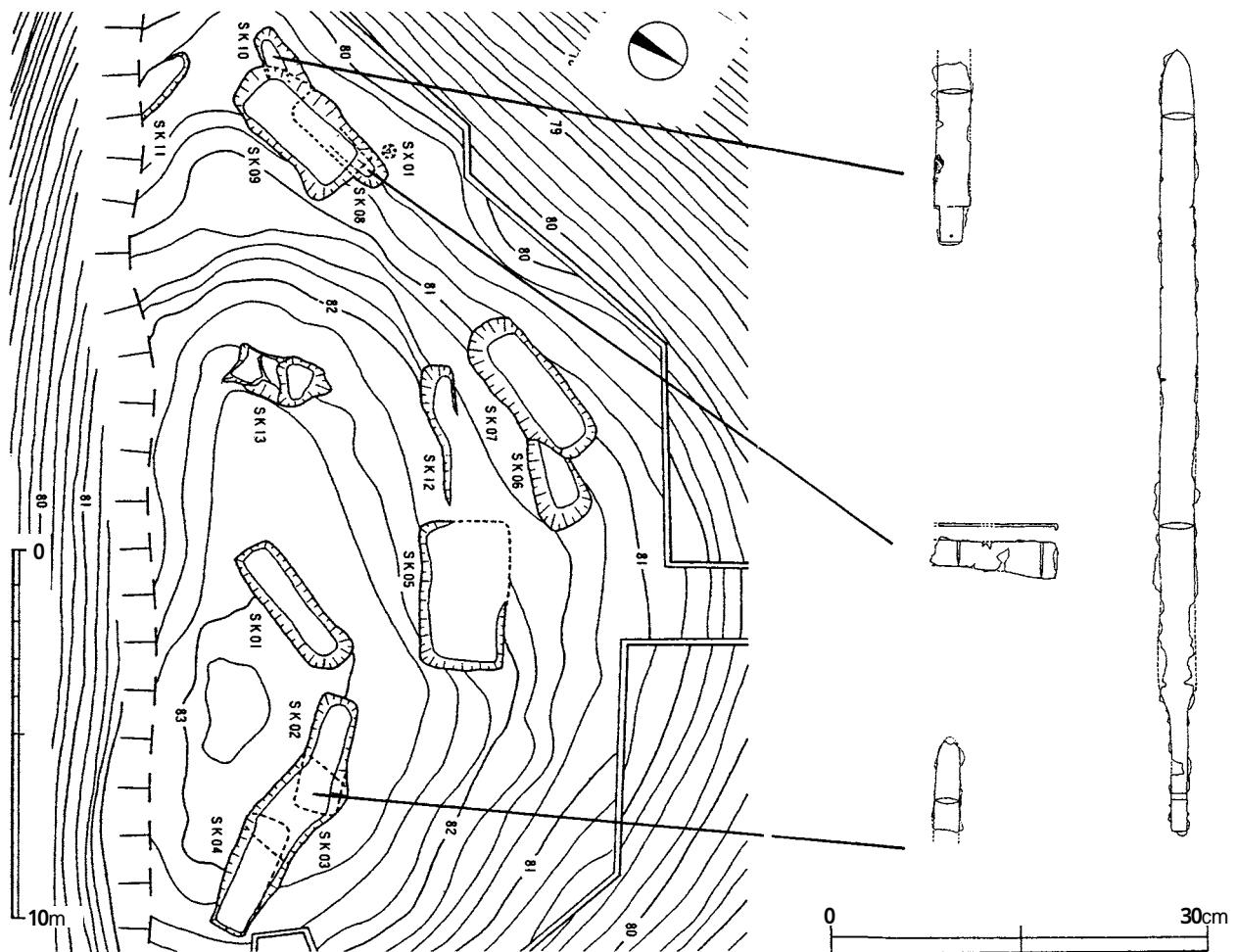
- [富山県]  
 1 杉谷4号墓 (終末期)  
 2 六治古塚 (終末期)  
 3 鏡坂1号墓 (終末期)  
 4 鏡坂2号墓 (終末期)  
 5 富崎1号墓 (終末期)  
 6 富崎2号墓 (終末期)  
 7 富崎3号墓 (終末期)
- [石川県]  
 8 旭一塚21号墓 (終末期)
- [福井県]  
 9 高柳2号墓 (終末期)  
 10 斎賀日山1号墓 (終末期)  
 11 小羽山30号墓 (後期後半)



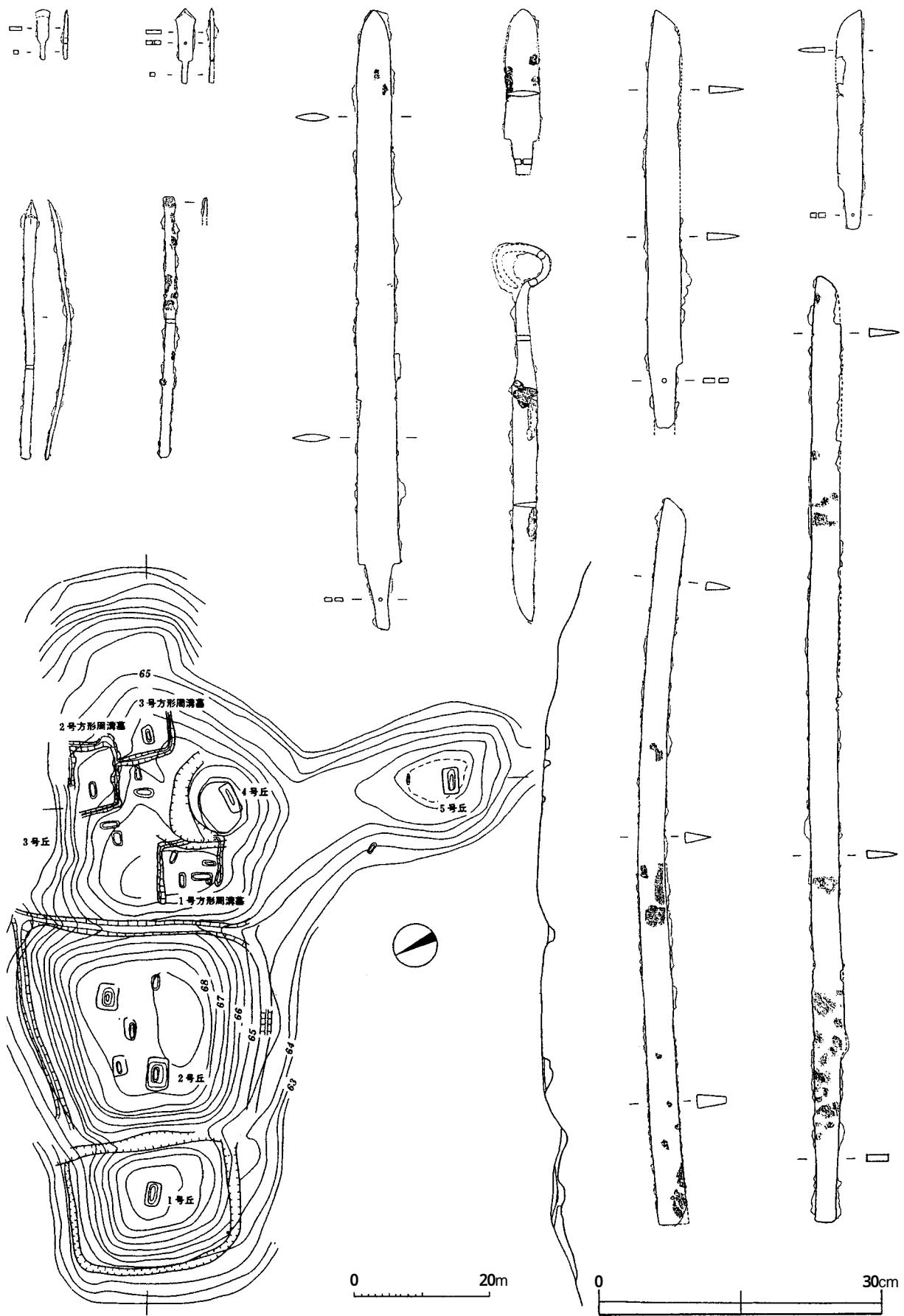
北陸地域における四隅突出型墳丘墓の分布図



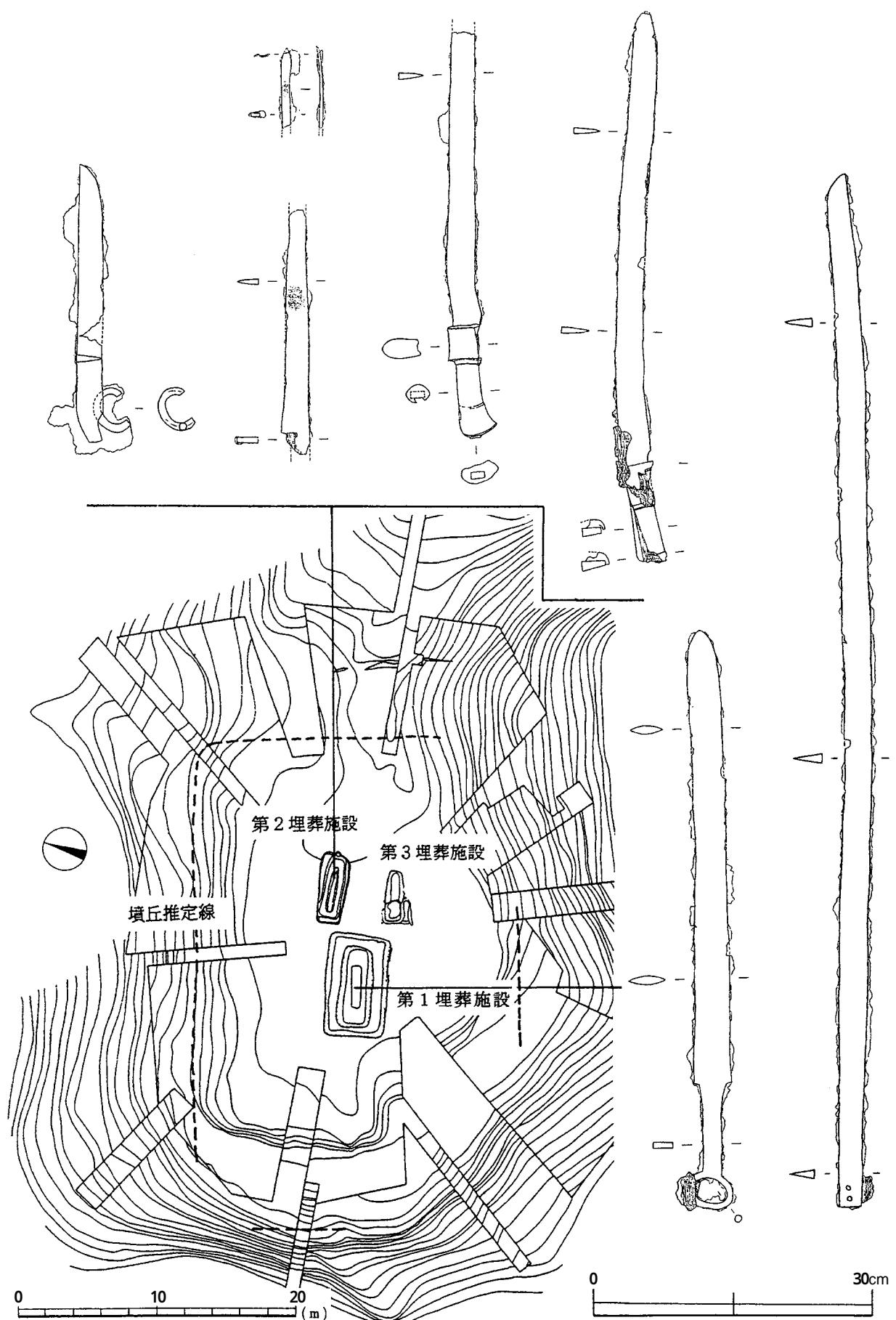
小羽山30号墓【古川1997より一部改編】( 遺構図 : S = 1 / 300 鉄製品 : S = 1 / 6 )



向山 B 遺跡【網谷1991より一部改編】( 遺構図 : S = 1 / 200 鉄製品 : S = 1 / 6 )



原目山墳墓群【福井市1990より一部改編】(遺構図:S=1/800 鉄製品:S=1/6)



乃木山古墳【松井1997より一部改編】(遺構図: S = 1 / 400 鉄製品: S = 1 / 6)